

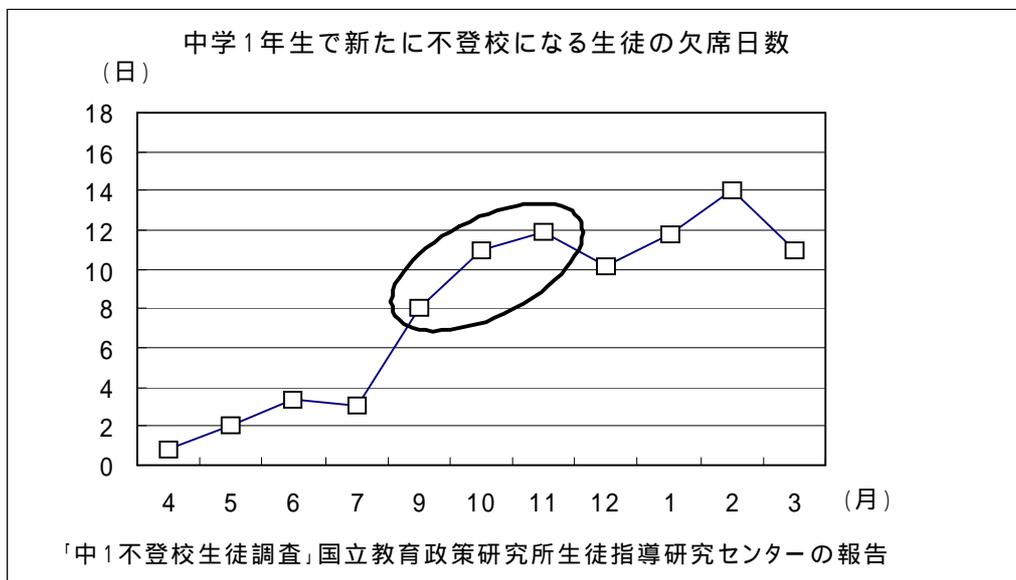
## 学校行事を通して、子どもたちの成長を図る

### 1 2学期から欠席日数が増えてくる子どもたち

2学期は、運動会や音楽会、文化祭、遠足等の行事を通して、友情を深めたり、学級のまとまりを実感することが多くなる時期です。学校行事という言葉から、「行事を通して、あの子は成長したな」と思い当たる顔が、次々と浮かんでくるのではないのでしょうか？

しかし、「学校行事は全ての子どもにとって楽しいものである」というのは、私たちの思い込みかもしれません。学校行事では、子ども同士の間関係が濃くなります。すると、必然的にトラブルや葛藤が生まれます。だから、友だち関係のトラブルなどから学校生活がしんどくなっていく子もいます。また、様々な事情で、行事などの集団活動に参加したくない子や参加しにくい子がいます。全国的な欠席調査でも、下図のように毎年9・10月頃から学校を休む日数が増えてきています。

でも、多くの子どもたちは、学校行事を通して大きく成長することができています。学校行事の取り組みは、私たち教職員が子どもの心の成長や人間関係にかかわる大きなチャンスなのです。



### 2 評価のものさしを多様化し、建設的なものに

子どもたちがお互いの意見や行動を認め合い、評価しあう場面を、行事の中に意識的に設定していきます。最初、教員が子どもたちに話し合いをさせていく上で、友だちを見る視点のポイントを説明することが必要です。

目立たなくても、地道に取り組んでいる。  
いい結果が出なくても、信じて取り組んでいる。  
みんなが過ごしやすいように、さりげない配慮をしている。  
自分の取り組みを楽しんでいる。

このような点を、最初に話します。そうでないと、結果やできたこと、目立つこと、派手なことのみが評価の基準になってしまいます。

学校行事は、教員と子ども、子ども同士の間人間関係を結ぶ大きなチャンスです。教員の価値観を教え込んだり、教員の枠組みに押し込んだりすると、そのチャンスが失われてしまいます。教員が小さいことを認め、子ども同士で認め合う場を多く設けることで、「認められ感の少ない」非承認群の子どもたちが減り、学級の雰囲気グッと良くなると思います。

### 3 子どもの声 「このクラスになれてよかった」

私は最初にこのクラスになった時、楽しくやっていけるのかなと思っていたけど、今ではそんな思いも消え、このクラスの一員になれてよかったと思っている。そりゃ、むかつくこととかあって、こんなクラスなんかいやだ、と思った時もあったけど、つらいことや悲しいことを乗り越えて、うれしいことや楽しいことをともに感じてきたのはみんなとだから、私はやっぱりこのクラスになれて本当によかったと思う。このクラスの思い出の中で一番心に残っているのは合唱コンクールだ。朝、昼、放課後といろいろな時間を使って練習し、本番では、精一杯歌えた。そして、何よりもよかったのは、合唱という一つの行事で、みんなの心が一つにまとまったことだ。37人という人の心が一つにまとまるということは素晴らしいことだと思う。(中学校2年女子)

#### 【参考・引用文献】

- 1 人間関係のトラブルや葛藤を心を鍛えるチャンスに、中山千恵子、「月刊学校教育相談」所収、2006年、ほんの森の出版
- 2 教師のためのソーシャルスキル、河村茂雄、2002年、誠信書房